

2021年度 明治学院共通科目 ゼミ的教養科目(ヘボン塾)ガイドブック

“ヘボン塾”科目について2

2021年度ヘボン塾紹介

「アジア・日本研究A・B」

* 嶋田 彩司 (火曜 5限・白金)3

～東アジアの人文学(日本語母語話者クラス)～

「アジア・日本研究A・B」

* 徐 正敏 (火曜 5限・白金)4

～東アジアの人文学(留学生クラス)～

「現代科学研究A・B」

* 黒川 貞生 (火曜 6限・白金)5

～身体と身体の動きを科学する～

「ヨーロッパ文化圏研究A・B」

* 塩谷 祐人 (火曜 3限・白金)6

～フランス(パリ)における外国人から、フランス文化を考える～

履修の手引き7

※ 3年次生以上の科目です。募集は2、3年次秋学期に行います。

“ヘボン塾”科目について

“ヘボン塾”科目とは、明治学院共通科目におけるゼミ的教養科目（旧 H 群科目）の通称です。このガイドブックでは、はじめに“ヘボン塾”の名の由来について説明し、次に次年度に開講されるクラスを紹介し、さらに履修上の注意と手続きを説明します。

1863年、アメリカより来日した医療宣教師 Dr. J. C. Hepburn とその夫人 Clara によって、横浜の地に英語と聖書を学ぶ「ヘボン塾」が創設されました。これが明治学院大学の源流であり、また、明治学院大学の教養教育の源流です。

ヘボンたちの活動は、キリスト教の伝道だけではなく、施療院での医療奉仕から、『和英語林集成』に代表される文化事業にいたるまで、実に広範多岐に及びました。その根本にある精神は、社会的弱者へのあたたかい眼差しと、孤立していた日本文化を世界へと開き、つなげてゆくことでした。

史料によれば、「ヘボン塾」を受け継いだ草創期の明治学院では、英語はもちろんのこと、国漢学、史学、哲学から、自然科学、スポーツに至るまで、幅広い教科がおかれていました。これらの教育科目のめざしたところもまた、社会的現実への関心の養成と、国際的視野での社会・文化貢献に集約されます。自らを世界につなげてゆく——世界を知ることは、自らを外側からみつめる視点を獲得することにほかなりません。そして、それは社会の現実を自らの問題として引き受けてゆく態度、つまり社会参加の意志をはぐくむものにほかなりませんでした。

ヘボンは明治学院生に、日本とそこに生きる彼ら自身の姿を、広く世界のなかで発見することの意義を伝えました。それは、たんなる知的な自己確認の作業というのではなく、何かに、誰かに、自らをつなげてゆくという強い能動性、行動性をもったものでもありました。

私たちはいま、この原点に立ち戻り、21世紀を生きる者として、自らを世界につなぎ、そこへ自らを投げ出すことを通して、自らを高め、また、社会に貢献してゆくような、能動的で、行動的な新しい教養のあり方をみなさんに伝えたいと考えています。それを少人数制のゼミ的授業でおこなうのが“ヘボン塾”科目です。

1・2年次に、明治学院共通科目を通して、自分の興味や関心を開かれた者も多いに違いありません。“ヘボン塾”は、それらをさらに3年次以降も、より深く学んでみたいと感じている学生を対象に、広く開かれた科目群です。学科のゼミとの一番大きな違いは、異なる学科の学生が、それぞれ異なる専門の知識や関心をここに持ち寄って議論をし、相互に学びを深めてゆくことができるという点にあると言えるでしょう。関心のある学生は、以下、このガイドブックをよく読んで、履修手続きを行ってください。

それでは、次に次年度の“ヘボン塾”の開講クラスについて紹介します。

アジア・日本研究A・B	担当：嶋田 彩司（しまだ さいし）
	曜時限・校地：火曜日5限・白金

■ 授業テーマ ■	東アジアの人文学（日本語母語話者クラス）
■ 授業定員 ■	10名以下（春・秋学期を通して履修可能な者にかぎる）
■ 授業内容 ■	日中韓を中心とする東アジアの文化（言語・文学・宗教・サブカルチャー等々）について、履修者各自がテーマを選定し、授業で発表し、ディスカッションをおこないます。調査研究の方法等については、教員が指導します。また、関連する課外講座の聴講等を通して、知見を深めるための活動をおこないます。 なお、授業を留学生が履修する徐正敏クラスと合同でおこなうこともあります。
■ レポート ■	テーマは任意です。春学期末に仮レポートを作成、提出し、秋学期末に所定の字数と形式をみたすものに仕上げ提出します。
■ 成績評価 ■	上記のレポートと授業参加の積極性を総合して判断します。
■ 自己紹介 ■	日本文学の授業を担当することとあわせて、もう二十年以上留学生科目を担当しています。願っていることは、ひとりでも多くの日本人学生が、アジアの学生と出会い、自らがアジアの一員であることを知り、アジアと共に歩むことの意志をかたくしてくれることです。近代の不幸な歴史を背景に、東アジアの国家関係は不安定です。それを乗り越えてゆく方策は、人と人との関係の中でアジアという概念を血肉化することしかないと思っています。
■ 研究領域 ■	近世（江戸）の国学思想と上田秋成の文学研究
■ 担当授業 ■	日本文学、日本文化論、日本の社会と文化
■ もう一言 ■	授業参加を希望する留学生は、徐正敏先生の授業に申し込んでください。
■ 申込 ■	e-mail（嶋田）：shimada@gen.meijigakuin.ac.jp 期限：4月第1週授業時まで（先着10名で締め切り） なお、時間割上の制約による事後のキャンセルを可とする
■ 履修相談 ■	e-mailで相談のこと

アジア・日本研究A・B	担当：徐正敏（そ・じょんみん）
	曜時限・校地：火曜日5限・白金

■ 授業テーマ ■	東アジアの人文学（留学生クラス）
■ 授業定員 ■	留学生10名以下（春・秋学期を通して履修可能な者にかぎる）
■ 授業内容 ■	<p>日中韓を中心とする東アジアの文化（言語・文学・宗教・サブカルチャー等々）について、履修者各自がテーマを選定し、授業で発表し、ディスカッションをおこないます（授業では日本語を用いる）。調査研究の方法等については、教員が指導します。また、関連する課外講座の聴講等を通して、知見を深めるための活動をおこないます。</p> <p>なお、授業を日本人学生が履修する嶋田彩司クラスと合同でおこなうこともあります。</p>
■ レポート ■	テーマは任意です。春学期末に仮レポートを作成、提出し、秋学期末に所定の字数と形式をみたすものに仕上げ提出します。
■ 成績評価 ■	上記のレポートと授業参加の積極性を総合して判断します。
■ 自己紹介 ■	<p>韓国出身として日本に留学経験を持っています。アジアの宗教史が専門で、10年以上韓国の延世大学で日本と韓国のキリスト教史や他宗教の歴史、日韓関係史、アジア宗教史などについての講義や大学院のセミナー指導を担当しました。2012年以降明学でも日韓の宗教と文化の歴史、現状についてセミナー形式の授業を担当しました。日本に、特に明学に留学した学生たちにアジアとしての日本、アジア各国の文化、宗教、人文を理解して、未来の平和な共生可能性を自覚してくれることを望んでいます。</p>
■ 研究領域 ■	日韓キリスト教史、アジア宗教文化史、特に日韓関係史
■ 担当授業 ■	キリスト教基礎、宗教史
■ もう一言 ■	授業参加を希望する日本人学生は、嶋田彩司先生の授業に申し込んでください。
■ 申込 ■	<p>e-mail（徐正敏）：jmsuh@gen.meijigakuin.ac.jp</p> <p>期限：4月第1週授業時まで（先着10名で締め切り）</p> <p>なお、時間割上の制約による事後のキャンセルを可とする</p>
■ 履修相談 ■	e-mailで相談のこと

現代科学研究A・B	担当:黒川 貞生(くろかわ さだお)
	曜時限・校地:火曜日6限・白金

■ 授業テーマ ■	身体と身体の動きを科学する
■ 授業定員 ■	10名前後(春・秋学期を通して履修可能な学生にかぎる)
■ 授業内容 ■	<p>① 走, 跳, 投の基本動作からスポーツ動作までいろいろな身体の動きを分析し, 効率的な動作について検討し, パフォーマンスの向上に役立てる. また, それに関わる文献抄読を行う.</p> <p>② 体力づくり, 筋力およびパワーアップ, 認知機能, 骨密度, 体脂肪とダイエット等, ヒトの身体に関わる内容について, 文献を抄読し, ディスカッションする. また, 身体の形態および機能に関わる測定法について実験・実習する.</p> <p>授業は基本的に白金校地で行うが, 実験等を行う場合は, 別の曜日に横浜校地で行う.</p>
■ レポート ■	ヒトの身体および身体の動きに関わることで, 日頃から疑問に感じていることについて, その疑問点を実験的手法等により明らかにし, 論文形式にまとめて提出する.
■ 成績評価 ■	上記のレポートと学習態度から総合的に評価する.
■ 自己紹介 ■	ヒトの身体(最近では神経・筋の調節機構に興味あり)とその動きについて超音波画像撮像装置, 電気刺激装置, 経頭蓋磁気刺激装置, フォースプレート(地面反力を測定する機器), 高速度カメラ等を用いて生理学的・バイオメカニクス的研究を行っています. スポーツ競技は中学から大学までプレーヤーとして, またその後はコーチとしてバレーボールに関わってきました. 10年くらい男子ナショナルチームの指導にも関わってきました. その影響で, どうしたら高く跳べるか, パワフルなスパイクはどうしたら打てるか, またそのコーチングについては今もとても興味あり, 研究テーマの1つとしています. 最近では認知機能と身体運動との関係に興味を持っています.
■ 研究領域 ■	<p>スポーツ生理学, バイオメカニクス, コーチング, トレーニング・運動処方</p> <p>興味を中心:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①. ヒトの身体運動における筋と腱の動態および神経-筋のコーディネーション ②. スポーツ動作のバイオメカニクスの分析およびコーチング ③. スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング ④. 身体組成(筋, 脂肪, 骨の形態と機能) ⑤. 認知機能と身体運動との関連
■ 担当授業 ■	サステナビリティ学, バイオメカニクス理論・実習, スポーツ科学 シーズンスポーツ研究
■ もう一言 ■	ヒトの身体および身体運動に関わることで, 疑問点を明らかにすることが, この授業の目標です. そのための方法論や論文としてのまとめ方について学習します. 学んだ知見, 方法論等は, 今後の生活の質の向上, あるいはスポーツパフォーマンスの向上に大いに役立つと思います.
■ 申込 ■	履修の動機および研究したい事柄を以下のメールアドレスに送信し, 申込んで下さい. skurokawa@gen.meijigakuin.ac.jp (期間:2021年3月31日)
■ 履修相談 ■	履修相談や質問等は上記メールアドレスに送信し, 問い合わせてください.

ヨーロッパ文化圏研究A・B	担当：塩谷 祐人（えんや まさと）
	曜時限・校地：火曜日3限・白金

■ 授業テーマ ■	フランス（パリ）における外国人から、フランス文化を考える。
■ 授業定員 ■	10名程度
■ 授業内容 ■	<p>「フランスの文化」を考えると、多くの人が文学、美術、映画、ファッション、料理などを思い浮かべることでしょう。しかし、長い歴史と豊富な文化遺産をもつフランス（とりわけパリ）においては、その文化形成において外国人の役割を無視することはできません。</p> <p>この授業ではそうした外国人を通じて、「フランスの」文化とは何かを考えていきます。また、国を超えて別の国に居場所を求めること、あるいは居場所をなくすことについても、みんなで考えていきます。</p>
■ レポート ■	パリで活躍した外国出身の人物を1名選び、その人物（あるいはその作品）について、レポートを書いてもらいます。（予定では4000字以上）
■ 成績評価 ■	学期末のレポートと授業参加（グループ発表など）で評価します。
■ 自己紹介 ■	<p>専門はフランスの現代文学で、とりわけ東ヨーロッパや中央ヨーロッパから亡命してフランスに移り住み、フランス語で執筆する作家たちの研究をしています。</p> <p>明治学院大学のフランス文学科の卒業生で、在学中にエクス政治学院に留学。その後、明治学院の大学院に進み、パリ第Ⅶ大学への留学を経て明治学院で博士号を取得しました。現在は教養教育センターに所属しています。</p>
■ 研究領域 ■	<p>フランス現代文学を中心とした亡命者の文学（ミラン・クンデラ、アンドレイ・マキエヌ、アゴタ・クリストフなど）、越境文学、世界文学。</p> <p>最近ではフランス語語学教育、食文化、モード研究にも関心を広げています。</p>
■ 担当授業 ■	<p>初習外国語のフランス語（フランス語1～4）（横浜）</p> <p>ヨーロッパ言語圏の文化入門、ヨーロッパ言語圏の文化各論（横浜）</p> <p>アカデミック・ライティング（横浜）</p>
■ もう一言 ■	<p>移動が制限され、ましてや他の国に行くことなど論外という経験を我々はしたばかりです。その結果、オンラインによって現実の場を越えた交流や活動の可能性も開かれましたが、こうした経験を経たからこそ、「実際に移動する」「場を変えて活動する」「ある場所に他者として存在する」といった越境者の視点は再考に値するでしょう。現在とこれからの文化のことも考えられるゼミ的空間を学生と作っていただければと思っています。</p>
■ 申込 ■	<p>e-mail: enya@gen.meijigakuin.ac.jp</p> <p>期限：2021年3月31日</p>
■ 履修相談 ■	<p>メールにて相談（アドレスは上記の申込のアドレスと同じ）</p> <p>もし希望者が定員以上の場合は、志望動機書を書いてもらった上で、抽選・選抜をおこないます。</p>

履修の手引き

2021年度は以下の4科目が開講されます。

1 「アジア・日本研究A・B」(日本語母語話者クラス)、「アジア・日本研究A・B」(留学生クラス)、「現代科学研究A・B」「ヨーロッパ文化圏研究A・B」

A・Bは形式上別科目ですが、内容的には1年間の学習プログラムですので、原則として、A・Bの両方を連続して履修するようにしてください。

2 ゼミ的教養科目は、**3年次生以上のみなさんへの配当科目**となっています。履修者の募集は履修前年度の秋学期に行います。現1年次生のみなさんは応募することができませんが、次年度以降の学修計画のためにこの冊子を大いに活用してください。

3 ゼミ的教養科目の**単位取得には、一定分量のレポート提出が必要条件**として課されています。詳細については、それぞれの科目担当教員から説明を受けてください。

4 ゼミ的教養科目の履修希望者は、**担当教員の申込E-mailアドレス**(p.3の申込欄を参照)に以下の**必要事項を送信**してください。件名は「ゼミ的教養科目履修エントリー」とすること。

- ①学籍番号
- ②氏名(フリガナ)
- ③連絡先(電話番号及びE-mailアドレス)
- ※履修の可否等をお知らせします。確実に連絡が取れる電話番号とE-mailアドレスを正確に書いてください。
- ④担当教員へのメッセージ、質問等(100字以内)

5 所定の募集期間中に定員に達したクラスは、その後に欠員が生じた場合を除いて、エントリーの追加は行いません。定員に空きのあるクラスは、募集期間終了後もエントリーの追加が可能な場合があります。**4月の履修登録期間までに、各担当教員に各自で履修相談を行い、履修許可を得てください。ただし、定員になり次第募集は打ち切ります**ので、できるだけ早く履修相談を行ってください。

ゼミ的教養科目の履修登録作業は教務課で行いますので、自分で登録する必要はありません。また、一旦登録されると、それをみなさんが自分で取り消すことはできません。履修登録を取り消したい場合は、春学期の履修登録期間中に、必ず担当教員まで申し出て、履修取り消しの許可を得てください。

6 履修手続に関する不明な点や、授業内容についての質問は、各ページに記載されている所定の履修相談日等を利用して、各担当教員に直接お尋ねください。

以上